



平成 20 年 5 月 12 日

各 位

会 社 名 株 式 会 社 オ プ ト
代 表 者 名 代表取締役社長 海老根 智仁
(コーポレート)
担 当 者
役 職 ・ 氏 名 執行役員 CFO 石 橋 宜 忠
電 話 0 3 - 6 2 6 8 - 3 8 0 0

平成 20 年 12 月期通期・中間期業績見通し(連結・個別)に関するお知らせ

平成 20 年 12 月期通期・中間期の業績見通し(連結・個別)に関しまして、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 平成 20 年 12 月期通期(平成 20 年 1 月 1 日～平成 20 年 12 月 31 日)業績見通し 連結業績見通し

(金額の単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
平成 20 年 12 月期 通期業績見通し(A)	55,500	1,570	1,490	460
平成 19 年 12 月期 通期実績(B)	35,285	1,279	1,179	690
増減額(A - B) (C)	20,214	290	310	230
増減率 (C) / (B)(%)	57.3	22.7	26.3	33.3

個別業績見通し

(金額の単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
平成 20 年 12 月期 通期業績見通し(A)	48,000	1,210	1,210	335
平成 19 年 12 月期 通期実績(B)	29,524	822	817	544
増減額(A - B) (C)	18,475	387	392	209
増減率 (C) / (B)(%)	62.6	47.1	48.1	38.5

2. 平成20年12月期中間期（平成20年1月1日～平成20年6月30日）業績見通し
連結業績見通し

（金額の単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	中間純利益
平成20年12月期 中間期業績見通し（A）	22,500	560	530	100
平成19年12月期 中間期実績（B）	17,098	727	685	463
増減額（A - B） （C）	5,401	167	155	563
増減率 （C） / （B）（％）	31.6	23.0	22.7	-

個別業績見通し

（金額の単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	中間純利益
平成20年12月期 中間期業績見通し（A）	19,000	400	410	135
平成19年12月期 中間期実績（B）	14,432	485	474	360
増減額（A - B） （C）	4,567	85	64	495
増減率 （C） / （B）（％）	31.6	17.6	13.6	-

3. 業績概要

当社グループを取り巻くインターネットビジネス環境は、ブロードバンド接続の普及や携帯電話端末によるインターネット接続の増加などから、インターネット利用者が8,000万人（財団法人インターネット協会発表）を突破し、ブログ、SNS（Social Networking Service）といったCGM（Consumer Generated Media）もコミュニケーションツールとして定着するなどインターネットは日常生活に欠かせないメディアとなっております。当社の主要事業ドメインであるインターネット広告についても、市場規模が平成19年に6,003億円（電通発表）となるなど引き続き拡大を続けております。

このような状況下、当社は「クライアントファースト」をキーワードに掲げ、広告事業の継続拡大を最重要テーマに、主な戦略として大手大口顧客の開拓深耕と株式会社電通（以下、「電通」という）との協業の強化を行い、市場シェアの拡大を図っております。この戦略のうち、電通との協業強化は、平成19年12月20日発表「株式会社電通と株式会社オプトの資本・業務提携に関するお知らせ」のとおり、電通は当社をインタラクティブメディアの主たるバイイング先とし、当社は電通連結子会社の株式会社サイバー・コミュニケーションズ及びその子会社を主たるメディア発注先とする等3社で協議を進めてまいりました。今般、平成20年4月より、このスキームに基づく実質的な作業を開始し、当社より24名が電通へ出向したことにより、今後電通クライアントに対してインタラクティブメディアを通じてのコミュニケーション、プロモーション作業体制をより積極的に拡大し、当社の売上及び利益増加を目指してまいります。

平成20年12月期の通期連結業績は、主に当社グループ独自による広告事業分野の伸長と上記の電通との協業効果で、市場成長率を大きく上回る売上高の伸びを達成するとともに、広告周辺領域であるテクノロジー事業分野やソリューション事業分野で、ネット広告効果測定システム等のeマーケティング支援システムツール（AD

PLANシリーズ)やSEOサービス、広告制作(クリエイティブ)などを拡大させることにより、売上高 55,500 百万円、営業利益 1,570 百万円、経常利益 1,490 百万円、当期純利益 460 百万円を見込んでおります。また、電通との協業案件の売上高は、13,000 百万円程度を見込んでおります。

中間期連結業績は、広告事業分野が拡大することにより、売上高 22,500 百万円、営業利益 560 百万円、経常利益 530 百万円、中間純利益 100 百万円を見込んでおります。営業利益および経常利益が前年同期間と比べ減少する主な理由は、広告事業分野における比較サイト運営を前期から縮小させていること等による売上総利益率の低下と、単体および連結子会社における人件費・研究開発費の増加により販売管理費が増加するためであります。

なお、通期・中間期ともに純利益は、平成 20 年 3 月 19 日発表「特別損失発生のお知らせ」のとおり、投資有価証券評価損による特別損失を第 1 四半期に計上するため、前年同期比で減少する見込みであります。

4. その他(配当予想について)

平成 20 年度の配当は、前期と同等以上とする方針ですが、その決定の主な要素としている業績につき、進捗を見極め慎重に決定したく、引き続き具体的な金額は未定といたします。なお、配当に関する方針は、「平成 19 年 12 月期 決算短信 - 1. 経営成績 - (3) 利益配分に関する基本方針及び当期・次期の配当」に記載のとおりです。

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

業績予想につきましては、当社が現時点で入手可能な情報による判断、仮定に基づくものであり、実際の業績は、今後の経済情勢、事業運営における様々な状況によって、予想数値と異なる場合があります。

以上